



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第31号

発行日：平成22年1月20日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷（株）

歴史を見つめてきた山



魚津市中心部の東方約4kmの位置にある天神山は、標高160mあまりの小さな山で、中腹には魚津市の歴史民俗博物館が建っています。山全体はアカマツやコナラの林で覆われていますが、平坦面や溝(空堀)などの人工的な地形がのこり、かつてここが山城であったことが読み取られます。天神山から西を望めば、魚津の街並み越しに富山湾が見渡せます。魚津城の戦いでここに陣を張った上杉景勝たちは、どんな思いで、何を見たのでしょうか。

『魚津城の戦い』と蜃気楼 —上杉景勝と直江兼統は蜃気楼を見たか—

学芸員 石須秀知

はじめに

平成21年は、ドラマなどの影響もあり、魚津城をめぐる郷土の歴史にあらためてスポットライトが当てられました。魚津埋没林博物館では、魚津城の戦いの時期が蜃気楼シーズンだったことに着目して、ミニ企画展『『魚津城の戦い』と蜃気楼』を開催しました。本文は、その展示内容を再編成したものです。

「魚津城の戦い」とは

天正10年(1582年)、3月。織田信長は、配下の武将柴田勝家、佐々成政、前田利家らの軍勢を越中魚津に進めました。めざすは、越後の上杉景勝勢力の掃討です。その戦いの舞台となったのが魚津城。そこは、海陸交通のかなめで、双方にとって重要な地点でした。

上杉勢は、数倍の兵力の織田軍を相手に城にこもって善戦しましたが、5月6日には二の丸が落とされました。魚津城を救いたい景勝ではありましたが、越後周辺の情勢不安によって動けず、ようやく魚津の天神山に布陣したのは5月15日のことでした。しかし、敵が嚴重に包囲している魚津城に手を出すことができないまま、本国の春日山城に危機が迫り、景勝は5月26日、やむなく越後に引き返しました。

上杉軍の撤退により、6月3日、魚津城はついに落ち、3月の開戦から80日にもおよんだ戦いが終わりました。

魚津城の悲運

魚津城が落城したのは6月3日。ところがその前

日、天下を揺るがす大事件が起きていました。本能寺の変です。

京都本能寺で織田信長が明智光秀軍に襲撃され自刃したのは6月2日でした。しかしその知らせが魚津へ伝わるまでの間に魚津城は落ち、城を守っていた将兵たちは死に果ててしまったのです。



魚津城跡の石碑 (現・大町小学校)

80日を費やして魚津城を落とした織田軍でしたが、そこへ信長死去の知らせが届きます。織田軍の武将柴田勝家、前田利家らは戦乱に備えて自分たちの領国へもどり、越中を治める佐々成政も本拠である富山城へと引き上げて行きました。

こうして多くの将兵を犠牲にした落城からわずかな期間で、魚津城は再び上杉勢の手にもどることになったのです。

上杉景勝と直江兼統は蜃気楼を見たか

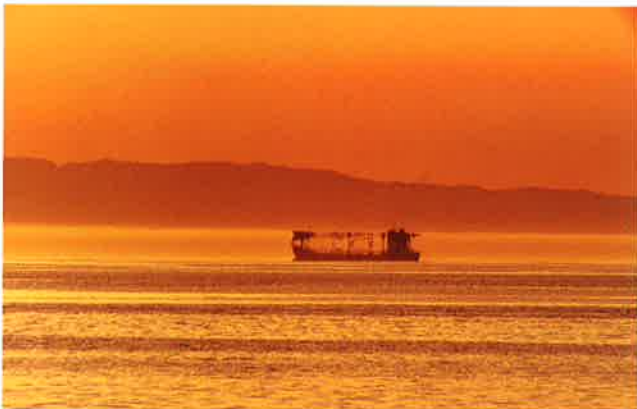
上杉景勝が天神山に布陣したのは、当時の暦の5月15～26日です。これを現在の暦に直すと6月中旬から下旬ごろになり、蜃気楼の発生しやすい時期の終わりごろにあたります。10日間あれば、

その間に蜃気楼が発生していた可能性はあります。

しかし、魚津城の危機を目前にした上杉景勝や直江兼統^{なお え かねつぐ}にとって、たとえ蜃気楼が発生していたとしても、それを目にする余裕はなかったと思われる。また、高台の天神山城からは富山湾が見渡せますが、見下ろす角度となるので蜃気楼を見るには適しません。

実のところ、魚津城の戦いに直江兼統が出陣していたという確実な記録はありません。しかし、上杉景勝に従って直江兼統も来ていたであろうという考えもあります。

このように可能性は低いですが、二人が魚津近辺を往来する中で蜃気楼を見る機会もあったかもしれない、と考えたほうがロマンがあるのではないのでしょうか。



船の蜃気楼

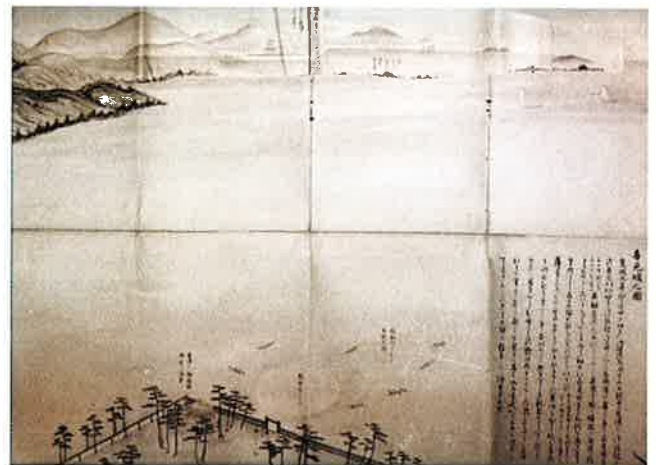
蜃気楼と上杉家、前田家

魚津城の戦いで敵同士となった、上杉景勝と前田利家。彼らが直接蜃気楼を目にしたかどうかは定かではありませんが、どちらの家系も蜃気楼には縁があります。

江戸時代の1698年に刊行された『北越軍談』では、上杉景勝の養父上杉謙信が、永禄7年(1564年)、魚津で蜃気楼を觀賞したとされています。ただし、謙信の死後百年以上たって書かれた書物であるため、創作の可能性が高いと思われます。

一方前田家は、江戸時代に加賀藩百万石の

大名となり、栄華を極めました。その五代藩主・前田綱紀^{つなのり}は、魚津で蜃気楼を見、吉兆と喜び「喜見城(きけんじょう)」と名づけたと『魚津古今記』に伝えられます。また、十一代藩主・前田治脩^{はるなが}は、1797年4月に魚津で蜃気楼に出会い、同行していた絵師に描かせた『喜見城之図』が残されています。



『喜見城之図』(部分)

歴史の日付と暦

「6月2日に本能寺の変が起きた」などの日付は、当時の暦^{こよみ}での日付です。戦国時代ごろの日本では、宣明暦^{せんみょうれき}という暦が使われ、現在の西暦(グレゴリオ暦)とは月の日数や閏(うるう)の決め方などがちがうため、日付がずれます。上杉景勝が天神山に布陣した5月15日をグレゴリオ暦に換算すると6月15日になり、同様に、魚津城落城の6月3日は7月2日になります。



能登半島方面の蜃気楼

シリーズ

埋没林の仲間たち ③〇

クルミ科

お菓子の材料やおつまみに欠かせない“ナッツ”にはいろいろな種類があります。ピーナッツやアーモンドなど、ナッツの多くは外国が原産の種類です。クルミも、流通しているのはテウチグルミなど外国原産の種類ですが、日本には在来種のオニグルミが自生しています。オニグルミのからは硬く中身も少ないですが、味はよく、昔から食料として利用されてきました。



オニグルミの雄花

おなじクルミ科でも、サワグルミは食べられる実はありません。名前のとおり沢筋によく見られ、翼のある果実をたくさん長い穂につけてぶら下げます。



サワグルミ

* * *

魚津市内では、両種ともに、山地の沢沿いなどに多数生育しています。魚津埋没林では、平成元年の発掘調査でクルミ属とサワグルミ属の花粉が検出されています。

お知らせ

●平成22年度のおもな行事予定

☆企画展示

蜃気楼写真展————— 5月1日(土)～7月31日(土)
ぐるぐる展————— 8月1日(日)～10月31日(日)
魚津ナチュラルギャラリー⑩ 1月2日(日)～4月30日(土)

☆ふれあい学習会

食べられる草ど～れだ? ————— 4月24日(土)
四葉のクローバーみつけた! ———— 5月22日(土)
野草でチャチャ茶 ————— 9月25日(土)
洞杉と蛇石ウォーキング————— 10月23日(土)
つるつるつくる————— 11月20日(土)
冬の蜃気楼ウォッチング—————
12月12日(日)・1月16日(日)・2月13日(日)

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } 徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765) 22-1049
ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

